

全国首長九条の会ニュース

2021年10月19日 第27号

●発行責任者：事務局長 鹿野文永

●連絡先：〒101-0065 東京都千代田区西神田2-5-7 神田中央ビル 303 九条の会気付 ☎03-3221-5075
fax03-3221-5076 メール：sppn3av9@hyper.ocn.ne.jp 口座番号 00190-4-635731 (全国首長九条の会)

総選挙 改憲阻止、9条守る選択を

10月19日公示、31日投票の総選挙です。自民党は「早期の憲法改正を実現する」とし大軍拡路線を公約しています。改憲を阻止し、9条を守る選択が求められます。そこで全国首長九条の会共同代表などの方々に、総選挙への思いを寄稿していただきました。

総選挙への思い

共同代表・武蔵野市長
松下 玲子



「コロナ禍からいのちと暮らしを守るまち武蔵野を！」をスローガンに掲げて武蔵野市長選挙に挑み、市民の皆さまのご信任を賜り、引き続き市政を担わせていただくことになりました。改めて私に課されました使命と責任の重さに身の引き締まる思いです。

1期4年の後半は、新型コロナウイルス感染症の影響により社会が一変し、様々な対策に取り組んだ約2年間でした。生活困窮者への支援や、市内事業者への市独自の経済支援、相談窓口の設置等の経済対策と、PCR検査体制の拡充やワクチン接種、自宅療養者支援等の感染対策を両立してコロナ対策に取り組む中で、改めて公共にはいのちと暮らしを守る代えがたい役割があることを再認識しています。命を守るセーフティーネットとして、最後の砦として公共があるということを、これから市政運営の中でもしっかりと果たしていきたいと思います。

政権を国民が選択する衆議院解散総選挙が始まりました。これまでの自民党政権による新型コロナウイルス感染症の様々な対応、経済対策が適切であったかどうか。安心して子どもを産み育てることができるか。一人ひとりの大切な命と人権が守られているか。憲法が守られているか。しっかりと過去の取組みを検証し、審判を下さなければならないと思います。私は同性婚も選択的夫婦別姓制度も国が実現出来ない現状から、来年4月から武蔵野市パート

ナーシップ証明書の発行が開始できるよう、条例改正し、市議会の賛成多数で可決されました。人権が守られて、誰もが自分らしく生きられるように、それぞれの幸せを追求することができるようになればと思います。引き続き、国に法改正を望みますが、実現には程遠いと考え、武蔵野市独自の取組みを行い、市内事業者にも協力を求めたいと思います。

戦争も核もない平和な社会を未来へとつないでいくために、憲法9条を守り継承していきたいと考えます。平和で自由で持続可能な社会を未来へつなぐため、これからも活動を続けてまいります。

「腹6分・腹8分」の思い

共同代表・元沖縄県名護市長
稻嶺 進



説明責任と情報公開をろにし、公文書改ざん等主主義後進国の実態を象する安倍・菅政権の終焉。しかし新政権のふたを開て見ればなんてことはな相変わらずの派閥の論理長老たちへの忖度ばかり

目立つ実態は異様としか言いようがない。

このような状況下でも日本国民は新政権への期待・希望を持てるというのであろうか。平和的外交を放り投げ「仮想敵国」をでっち上げて国民の不安を煽り、敵基地攻撃能力まで言及する改憲派たち。一方で、膨脹を続ける防衛予算で米国から高能力兵器を爆買いする日本。日米同盟と日米安保を8割を超える国民が支持し、憲法9条改悪にも意思表示し

ない現今の世情は「ゆでガエル」状態にあるのではと危惧するものである。

アメリカの属国と揶揄されても差別と分断を助長し、「辺野古が唯一」と繰り返す思考停止の安倍・菅政権の路線を踏襲する新政権（特技は「聞くから」も絵空事に聞こえる。）に沖縄の未来は描けない。故翁長健志元沖縄県知事が「イデオロギーよりアイデンティティー」「腹6分、腹8分」の精神で融和と結束を訴え、オール沖縄を誕生させたその背景には、日米両政府による米軍基地問題に翻弄され続けてきた沖縄の負の歴史は、保革問わず県民すべてが被ってきた事実に向き合うことで「沖縄県民の「地域主権=自己決定権」を確立するという意図が込められていたと思われる。翁長氏当選後の衆参国政選挙で6議席全てをオール沖縄が独占したことには翁長氏の思いが沖縄県民に共有された証だと思っている。しかし、前回の名護市長選挙で見られたように政府・官邸が金と権力をかざして露骨に介入し、分断を煽動する相手側の戦略は今後も予想される。沖縄はこのような植民地政策の常とう手段にも幾度となく抗ってきた歴史がある。「あきらめない」「負けてはならない」精神がもたらした生きる力がある。

オリバーストーン映画監督から名護市長室で「歴史を学べば、現在と未来は変えられる」という言葉をいただいた。今を生きる責任世代の私たちに伝えたかった言葉と言える。腹6分・腹8分で共闘を実現し、政権交代を勝ち取ろう！！

野党統一の力を見せつけよう

共同代表・元高知県四万十市長
田 中 全



10月31日の総選挙、負けられない戦いだ。この間、政府は野党が憲法に基づき要求した国会開会を逃げたまま、選挙用にトップの顔をすげ替えるお家騒動を大々的に演じマスコミをハイジャックし事前運動に利用。モリカケ、桜、学術会議問題等にはダンマリのまま選挙になだれこむという、民意をまどわす卑怯な作戦だ。権力を手放さないための悪知恵だが、それだけ野党統一を恐れているということだ。菅政権に止めを刺したのも横浜市長選での統一の力だった。

今回も市民団体の仲立ちで立憲民主、共産、社民、れいわの選挙協力で政権交代をめざす体制ができたことは心強い。

立憲主義の源流は土佐。1880（明治13）年、国会開設請願署名運動をリードし全国の過半を集めめた。中でも県西部の幡多が多かった。以後、自由民権運動に発展していった。

わが地元には、昭和21年の南海地震からの復興のリーダーであった青年団長兼松林檜郎の「団結すれば立ち、分裂すれば倒れる」という言葉がある。前回総選挙で高知2区は野党統一の広田一（無所属、現立憲民主）が自民現職に圧勝した。今回も高知1、2区は早々に統一体制ができている。

統一にはじやまや妨害はつきもの。いろんな騒音も入ってくる。しかし、憲法九条を守り、平和で公正・公平な日本をつくるということでまとまれば大きな力を発揮することは試されずみだ。このことに確信をもとう。

来る11月3日（文化の日）は日本国憲法公布日だ。この日、本ニュース第4号にも書いた幸徳秋水生誕150年を記念する「非戦の碑」を建立する。非戦・平和に命をかけた秋水と一緒に選挙を戦いたい。

いざ、行かん

事務局長：元宮城県鹿島台町長
鹿野 文永

2017年5月3日憲法記念日のこの日に、当時の首相だった安倍晋三氏は「2020年の5月3日は新しい憲法施行のもとで迎えたい」と語った。加えて麻生太郎氏までも、「ナチスの手法を見習って、静かに（憲法改正を）進めるのがよい」と、述べた。

これを聞いて、当時の世論は騒然。この2年前2015年には、安保関連法に反対する国民運動は、3,000万署名活動に結集され、憲法九条を守り生かす国民の意思と力を発揮した。この国民の意思と力の継続によって結局、2020年の憲法記念日は、74年間戦争をしない日本の九条を誇り高く祝う一日となった。為せば成る。

そして、今年10月31日の総選挙。改憲阻止は勿論、立憲政党と市民の勝利を期さなければなりません。勝利は我にあり。いざ、行かん。



（10月16日、宮城県で市民連合と4野党の共通政策確認書取り交わし式。立憲民主党の安住県連会長と日本共産党の中島県委員長の真ん中の黒いマスクが鹿野さんです）